2012 J.League Division2
第２１節 町田ゼルビア 戦

6/24（日） 18:00～
@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

ＦＣ岐阜大好き通信（岐大通）
6/24号
編集発行：『岐大通』製作委員会
今号の製作担当：
ささたく＆吉田鋳造

today's guest : 町田ゼルビア　2011 JFL 18勝 7分 8敗　勝ち点 61 第 3位

1989年に『ＦＣ町田』のトップチームとして創設。東京都社会人リーグから着実に昇格を重ね、 2008年には元・ＦＣ岐阜監督の戸塚哲也氏が監督に就任し関東１部を連覇、同年の地域決勝でも優勝しＪＦＬへ。 2010年の天皇杯では東京ヴェルディに 1-0で勝って３回戦に進出する。昨年、ランコ・ポポヴィッチ監督（現：ＦＣ東京監督）の下でＪＦＬ３位となり、本年よりＪ２。（吉田鋳造）

前節アウェイ福岡戦では、惜しくも引き分けに終わったＦＣ岐阜。本当は勝ち点３が欲しかったところだが、貴重な勝ち点１を積み上げて 20位に浮上し、いわゆる「降格圏」を 10節ぶりに脱出した。ここにきて、少しずつではあるがチームは手応えを感じてきているだろう。しかし、油断は禁物。現在の 19位～ 22位の４チームは勝ち点が 14～ 13と大混戦。たった１試合の結果で簡単に順位が入れ替わる緊迫した状況が続いていることに変わりはない。
さて、今年のリーグ戦も今節で前半戦が終了するが、その対戦相手は今季Ｊ参入組でもあるＦＣ町田ゼルビア、現在 22位のチームだ。リーグ前半戦を良い流れで折り返すためにも、また、勝ち点を積み上げて順位を安定させるためにも、しっかりと下位のチームを叩いておくことは非常に重要だ。
今季はホーム長良川で 4/15の北九州戦以来、勝利していないこともある。先日、クラブの経営危機に対して県内の行政と財界が一致団結して支援することに合意したとの報道もされた。この試合、いよいよ負ける訳にはいかない一戦だ。
さて、その町田だが、現在は最下位に沈んでいるが、前節の山形戦では引き分け。チームの調子は上がっており、油断は禁物だ。やはり最も注意すべき選手は、現在５得点を挙げて町田のエースとして君臨している＃ 25FW平本一樹だろう。１トップの彼を自由にさせなければ、岐阜は勝利に一歩近づくことができるだろう。その他にも、同じく５ゴールを決めている＃ 17MF鈴木崇文や、司令塔の＃ 10MFディミッチ、ルーキーながら全試合出場の＃ 16MF庄司悦大などにも要注意だ。また、町田のアルディレス監督はＪでの経験豊富な指揮官だが、ＦＣ岐阜の行徳監督はどのような策で臨むのか。奇しくも、数試合前から【４－１－４－１】システムを採用している両チーム。両監督の選手起用や采配にも目が離せないだろう。
まさに「負けられない戦い」。岐阜の選手が最後まで走りきり、そして勝利を掴むことを信じている。
（ささたく）

2012J2■順位表■第 20節

勝点、得失点差、得点、失点、岐阜戦の戦績 岐阜から視て）

1	東京Ｖ	40p	+20	39	19	A●	
2	千葉	39p	+22	34	12	A○	
3	湘南	39p	+12	35	23	A●	
4	山形	38p	+10	31	21	A●	
5	大分	37p	+10	28	18	H●	
6	甲府	36p	+12	30	18	H●	
7	京都	36p	+9	28	19	H●	
8	岡山	33p	+2	18	16	A○	
9	横浜FC	30p	+4	31	27	H●	
10	愛媛	28p	+6	27	21	H△	
11	水戸	28p	0	19	19	H●	
12	福岡	26p	+2	26	24	A△	
13	栃木	26p	0	25	25	A△	
14	徳島	25p	-3	19	22	A●	
15	北九州	25p	-4	22	26	H○	
16	松本	24p	-7	13	20	H●	
17	草津	23p	- 7	14	21	H△	
18	熊本	20p	-11	16	27	A●	
19	富山	14p	-13	16	29	A●	
20	岐阜	14p	-19	10	29	═	═
21	鳥取	14p	-29	15	44	H△	
22	町田	13p	-16	15	31		

Living in Woods
本庄工業株式会社
http://www.honjo-woodream.com/

ALADDIN
何も無い店だけど・・
心の花が咲く・・
何も無い店だけど・・・
心　癒される・・
忘れかけていた喫茶店がある
岐阜市昭和町３丁目（木ノ本公園東）

「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。
『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から
徒歩３分。
休：日曜日（今日はお休みです）
名鉄
ＪＲ

ＦＣ岐阜サポによるゲリラ的Ｕｓｔ配信番組

今シーズンからのサポーター発信企画として、基本的にホーム戦の前日に、インターネットの動画共有サービス「ユーストリーム」を利用した手作り感満載の番組を下記アドレスで放送しています。サポーターの『生の声』をお愉しみください。

http://www.ustream.tv/channel/sstak12-fcgifu
次回は 7/7（土） 21:00開始の予定です。

◇『岐大通』バックナンバーのお知らせ

すべてのバックナンバーを「吉田鋳造総合研究所」で pdfファイルを公開しています。配布時はＡ３サイズだったものも、こちらではご自宅などで印刷しやすいよう、すべてＡ４サイズに修正いたしました。下記アドレスをご参照ください。

http://www.cyic.co.uk/fcgifu/gidaidohri.html

投稿募集！
gidaidohri@hotmail.co.jp

次回 HomeGame
第 23節 ロアッソ熊本戦
7/8（日） 19:00
@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

【第18節】岐阜1-1愛媛

●あのシュートが不服だって言うんなら、どんなシュートだったら満足してネットを揺らさせてくれますか？と、サッカーの神様にお伺いしたくなるような決定機だった。フクアリでの歓喜を受けて、さらに上昇気流に乗るには願ってもないビッグチャンスだったのに……。歯がゆい思いを抱える仲間の憂さもいっきに晴れる瞬間が夢と消えたが、そこからスタジアムのボルテージは同点に追いついた直後以上に燃え上がったような気がする。
久しぶり、という言葉を使わなきゃいけないのが悔しいが、岐阜を応援する誰もが勝利を信じ、願って一体となれたんじゃないかな？こういう雰囲気をもっともっと作り出していかなきゃね。やっぱり、長良川で勝ちたいよ！
ただ、試合の展開としては前節の反動か、個々の動きも組織としてもキレがなく、決して調子のよくない愛媛におつきあいをさせられたような感じに見えた。そもそも初対戦以来、愛媛との試合はナゼだかこちらの動きがぎこちないことが多く、後味がワルイというか気持ちのよくない印象がある。「愛媛には一回も勝っていない。」と思い込んでいたくらいだ。そして、極め付けが前半の失点シーン。あのＰＫはバクスタからでも「ないだろ！」と思ったが、改めて録画を見てもやっぱり不可解。だったら、後半の染矢が止められたファールは色が違うんじゃないですか？と、小一時間……（笑）。
けれども、そんな展開だったからこそ、平の同点、しかもホーム初ゴールで追いつくという劇的な場面に興奮することができた。南アフリカ帰りの廣田はまだまだ体が重そうだったが、しっかり仕事をしてくれた。さすが、Ｕ－１９とはいえ世界大会で２得点も決めてくる男は一味違うね！そして、平にはああいうゴールをどんどん量産してほしい。それから、何といっても染矢の生涯最高(爆)のクロス！いや、実に鮮やかな孤を描いたクロスに、これまたドンピシャのタイミングで合わせた迫力満点の中島のヘッド！ＤＦの後ろから、サッと飛び込む姿は鳥肌モンだった。何度も言わせてもらうけど、アレが決まらないなんて、どうかしてるよ。でも、そんなもんか。サッカーなんて（苦笑）。
結局、ことサッカーに関する限り一度下された判定は、あとで酒の肴にでもするしかない。それにしても、勝ちたかったな。試合の終盤は、愛媛の裏を取りまくっていただけに本当に残念！さらに、向こうは主力２人が出場停止だっただけに余計残念！それでも、ひとまず、とにもかくにも最下位脱出。心配してた雨もなんとかもってくれた。少しはパラついたけどいいお湿りだったから、第三者的には楽しんでもらえただろうか？わざわざ足を運んでくれた仲間や初めて観戦に訪れた人が、また来ようと思ってくれたとすれば、価値ある引き分けだったということになるのだけれど。（ぐん、）

【第19節】東京Ｖ4-1岐阜

●試合前のメンバー情報を知って驚いた。ハンジェが欠場、多田も遠征メンバーに帯同せず、ＧＫが初出場の時久、中盤が服部１ボランチの４－１－４－１システムを使うとは予想だにしなかった。正直不安な要素が大きく、開始早々に失点を食らってしまったが、早い時間に樋口のシュートで追いつくことができた。
ペナルティエリアの少し外側から打った思い切りのよいシュートであった。その後は岐阜が優位に試合を進める場面もあったが、やはりリザーブにジョジマール、小林祐希、巻誠一郎と揃える選手層の違いもあり、またＰＫを２本献上してしまっては勝ち運はこちらに向いてくるはずもなく最後は引き離されて敗れるという結果に終わってしまった。スコアこそ最後は１－４と差がついてしまったものの、ある程度の時間は互角に戦えていたし、今回初めて導入した４－１－４－１というシステムも今後戦っていく中でオプションの１つとして取り入れることのできるメドは多少はついたのではないかと。敗戦は確かに悔しいものではあるが、今後に向けて前向きな要素もあったと思う。
それにしてもＦＣ岐阜が国立競技場で試合ができる日が来るとはと、会場に入ってからしばし感慨に耽ってしまった。もちろんここでは何度か試合を観戦したことがあるのだが、今までとはまた違う感情であった。
いつか天皇杯決勝の舞台としてＦＣ岐阜がここに立つことを夢見て…。（岐阜の誇り）
●国立霞ヶ丘陸上競技場、通称「国立」。言わずと知れた「日本サッカーの聖地」。古いスタジアムだしサッカー専用競技場でもないけど、それでも、やっぱり国立は特別。国立「西が丘」サッカー場では2010年に、同じく東京ヴェルディと試合をしてるんだけど、遂に、ここ国立でＦＣ岐阜が試合をする時がきた…と感慨深く言っても、Ｊ２リーグ戦の１試合なんだよね（苦笑）。それでも、平日のアウェイナイターだというのに、多くの岐阜サポがスタジアムに集まったのは、やっぱり「ＦＣ岐阜の初の国立」という記念すべき（？）試合だからだったと思う。そして、僕もその例外ではない（苦笑）。
スタメンは前節と同じだろうと思ってたら、なんと（良い意味で）驚きのＧＫ時久、服部の１ボランチ。僕は、長いリーグ戦を戦うためには、選手間の競争をさせたり疲労の溜まった選手を休ませてチーム全体の底上げと活性化を図るためにも、こういった選手起用については（スタメン発表の時に驚きはするけど（苦笑））良いことだと思う。
さて、試合は…うーん、選手たちの中にも「初国立」にフワフワ？緊張？してたのがいたかなぁ…（溜息）。試合開始わずか３分ので悔しい失点。ゴール前で時久が弾いたボールを押し込まれてしまった。でも、これまでなら、先に失点してしまうと苦しい展開になっていたのだけど、今節は違った。前半１２分に、樋口が豪快なミドルシュートを撃つと、ボールは、ＧＫから逃げるように曲がり、同点ゴール！これで流れはほぼ互角になり、東京Ｖにボールは持たれるけれど、粘り強く守る展開で前半は終了。
後半も、よく走り、集中して守っていたんだけど…あのＰＫは…（溜息）。ゴール前の混戦で、樋口が相手と交錯して倒してしまったけど、ちょっと不運なファールだったと思う。更に厳しいのは４点目。ＰＫは（あの野垣内のハンドにも思うところはあるけれど）まぁ仕方がない（？）として、ＰＫを止めたのをやり直しってのは…（溜息）。
確かに３点差をつけられてしまったので、結果だけみたら「大敗」だったように見られてしまうけど、実際にはそんな感じではなく、僕の感覚では「１－２」、悪くても「１－３」だったように思う。実際、岐阜のサポーターの多くもそう感じていたのだろう、選手たちを拍手で迎えたサポが殆どだったと思う。
ただし、やはり個々の技術に差があったのを痛切に感じた

のも、これまた事実。プレーの精度は確実に東京Ｖの方が上だったし、相手選手との「間合い」が違いすぎて、岐阜の選手は「これで良い」と思う距離でも、東京Ｖの選手には簡単にプレーさせてしまっているシーンも数多く見られた。残念ながら簡単に技術を向上させることは難しいだろうけれど、もっと集中して、あるいは勇気を出してプレーをしてほしい。
それにしても、やはり国立での試合は良い物だ。スタジアムグルメも長良川と比べると美味しくなかったけど（笑）。願わくば、今度このスタジアムに来る時は、天皇杯またはナビスコカップの決勝で、あるいはゼロックススーパーカップで…そう思って国立を後にしたのは、僕だけだろうか（苦笑）。（ささたく）
●なぜＰＫだったのか？なぜＰＫがやり直しだったのか？遠目にはよくわからなかったが、主審がそう判断したんだからしょうがない。帰ってから録画で確認してみた。４点目のＰＫは、「ＧＫは、キッカーが蹴るまで横へ動くのはいいけど、前へ出ちゃいけない。」というのがルールなら、やり直しはやむを得ない（見逃してくれてもよさげだが）。ただ、野垣内が警告を受けた場面。アレをハンドに取られるとＤＦはカラダを投げ出して防げないよなぁ……。両手とも脇につけてるんだから、当たっても不可抗力、少なくとも故意じゃない。しかも、笛を吹くタイミングもどうなんだろう？ボールが体に当たった瞬間どころか、ボールがゴールラインを割ってしばらく経ってからじゃなかったか？２点目についても微妙な気がする。樋口も前節の明弘も、実に気の毒としか言いようがない。正直、２点目が痛かった。
とはいえ、アノ２点目がなかったら勝ち越せていたかというと……。気をつけているハズの開始早々の失点で、またまたプランがぶち壊しになったか、と思いきや前半の内に、しかも遠目にもわかる樋口の見事なミドルで追いついて、７０分までよく持ちこたえたと言いたいが、やはりミスがあれほど続出したら、そりゃあ勝利の女神も見放すってもんだ。ミスをしなかったのが千葉戦で、ミスをしまくったのが東京緑戦。共によく頑張った試合だけど、それが結果への分岐点。そんな感じかな？
さらに、平の負傷交代が大きく影響したように思う。古巣相手に獅子奮迅の活躍を見せてくれてたし、樋口のミドルも演出してくれて存在感がバツグンだっただけに、あの負傷交代が残念でならない。
せっかく、千葉、愛媛とイイ流れで来てて、ここでこれまで勝ったことのない東京Ｖ相手にあわよくば勝ち点３。少なくとも勝ち点１をなんとか……と思っていたけど、今回もその目論見は達成できなかった。それでも、前述のとおり選手は頑張っていたし、それは見ている我々だけではなく、対戦した東京の選手たちの試合後のコメントからも伺える。「同点にされてからはどうやっていいか、わからなかった」とか「去年のチームより、はるかに強い」とか。特に、阿部拓馬と並んでやられてる感が強い飯尾にそんなことを言われるとは……。おいおい、どうなってんだよ？手放しのホメようじゃないか？ホメ殺しか？まさか、キミらまでソリマ〇とかいう隣県のクラブの監督の真似事をするのか？と勘繰ってしまうじゃないか（笑）。
まぁ、４点取られて負けたワケだし、ウチにはハットと平という「同じ釜の飯を食った」仲間がいるから社交辞令も含まれているかもしれないんで鵜呑みにはできないけど、向こうが攻めあぐねていた時間、ウチが凌いでいた時間があったのも事実。それも今まで試したことのない４－１－４－１という、システム的にハットのポジション、というかハットに比重がかかりすぎるシステムだけど、ある程度機能していたように思うし、前半と後半でシステムを変えてもそれなりに試合は作れていたようにも……、いや、開始早々にまたまた失点したワケだから、「試合を作れていた」とは言えないか。そのうえ、前述したように細かいミス、やってはいけないミスが続出しては勝てる試合になるハズもない。
逆にそのあたりの、集中しなければいけない場面、絶対失点してはいけない場面を凌いでいけば多くの勝ち点を得ることが可能になる。いい形が出来つつある。それが感じ取れただけ、ある程度納得ができた試合だった。少なくとも、どこかの新聞に出ていたような「守備崩壊」とは思えなかったが、それは過剰な身びいきかな？
あこがれの国立デビューを勝利で飾ることはできなかったが、雰囲気は十分堪能した。次は天皇杯決勝かな？
（ぐん、）
●問答無用！とばかりに早上がりのシフトに自分自身を叩きこんで（笑）向かった国立競技場。ただの「２部」の１試合、でもこんな機会でもなけりゃ“聖地”国立でのＦＣ岐阜の試合なんか観れないでしょう。同じようなことを考えた岐阜サポの知人友人は大勢いたようで。「あれ？天皇杯決勝で来るはずなのに、下見？」なんて冗談を飛ばしたり。
いきなり４－１－４－１なんてシステムでヴェルディに挑むなんて、なんとまあ無謀な……と思ってたら、３分保たずに失点してしまう。ああ、やっぱり。正直、“惨殺”を覚悟しました。ところが、１２分にファースト・シュートを樋口が鮮やかに右下隅に叩きこんで、それからは「外見的には」一進一退。そのまま前半を１－１で終えることが出来てしまった。これはもしかしたらひょっとして“勝ち点１”が持ち帰れるかも……？なぁんて、はい、ちょっとだけ夢を視ました。申し訳ない（笑）。
でも、そう思いながらも「それは夢だ」という冷静な（笑）認識もあったわけで。前半を１－１で終えることが出来た理由は「１０５％の岐阜と７０％のヴェルディの戦いだった」から。サブ要員の質も含めて、後半からネジを巻いてくるヴェルディがこんなもんじゃないのはわかってた、つもり。
そして、残念ながらそれはその通りだったみたい（苦笑）。選手交代を含めても時間が経つにつれて岐阜のパフォーマンスが１０５から９０になり８０になり……一方のヴェルディは７０が７５になり８０になり。そりゃ、こうなるよ。左ＳＢ野垣内のところからぐっちゃんぐっちゃんにやられちゃったけど、彼がマッチアップしていたのは西紀寛だ。経験値から戦闘係数からして違い過ぎる。気の毒なくらい。競馬の世界で言うところの『家賃が高い』感を「ものすごく感じてしまった。
結果、１－４。２失点はＰＫだったし、うち１本は一度は時久が止めたものの蹴り直しになったりだし、「運が来なかった」部分はある。けど、でも勝ち点が持ち帰れたかとなると、やはり困難なミッションだったと思う。
試合終了後、選手が挨拶に来たので拍手で迎えた。どうしても左ＳＢに目が行ってしまうけど（苦笑）、全体的には悪い内容ではなかった。残念だけど、これが『実力差』というヤツだ。
この試合の４日後、別件で再び上京していたぼくは、ヴェルディ×ジェフ千葉の『首位攻防戦』を味スタで観た。２－１でヴェルディが勝って首位を奪ったのだけど。その戦い方には、もちろんだけど“７０％感”はなかった。「そんなの当たり前じゃん！」と言われる可能性が高いことを承知で書くけど、やっぱり、ちょっと、悔しいよね。それって。
（吉田鋳造）

【第20節】福岡0-0岐阜

●自宅にてスカパー！観戦。現地で見た訳ではないから感じた雰囲気はちょっと違うかもしれないけれど、中３日しかも東京→福岡という厳しい行程でのアウェイ連戦にも関わらず、選手たちはよく走っていたし、集中できていたと思う。時久も、２試合目ということもあり、前節の東京Ｖ戦の時よりは（もちろん相手が違うこともあるだろうけど）安定していたかな？福岡の攻撃は、そんなに怖くなかったようだったし、決定機と呼べるようなピンチは、数回合ったかどうか…それとも、これほど落ち着いた（ＴＶの前で声を出したり拍手したりしていたのだけど（笑））感覚になっていたのは、スタジアムで激しく声援を送ることもなく、自宅でＴＶ観戦していたからだろうか？（苦笑）
それにしても…ロスタイムの中島の、「あの」ゴールは残念だった…と岐阜サポの誰もが思っているに違いない。僕もＴＶ前で雄叫びをあげ、その後に落胆した（苦笑）。まぁ、ハンドと判断されても仕方ない体勢（僕にはどちらとも判断できなかった）だったのは間違いないんだけどさ…でも、あのカード（警告）はないよなぁ…あのシュートをわざとやったってコト？明らかに手を使って押し込んだんなら別だけどさぁ…お陰で中島は累積警告で次節のホーム町田戦で出られなくなってしまった。しかしまぁ、「これもまたサッカー」と思う他ないのも、また事実な訳で（苦笑）。でも、あのゴール前の混戦状況で、ＧＫの前に飛び込んでこれる中島の身体能力の高さには改めて驚いた。また良い準備をして欲しいものだ。
試合終了直後、福岡サポが激しくブーイング。これで勝ってたら、遠征していた岐阜サポは最高に気持ちよかっただろうなぁ…と思うと、してやったりの満足感と、勝ち点２を取り逃した残念な気持ちとが、複雑に入り交じった感覚が残った試合だった。（ささたく）
●ハンドかぁ。ハンドかなぁ？ハンドじゃないんじゃないかなぁ？ボクらの席からはカンペキなゴールに見えたけど。それに、主審の位置からはブラインドになってて見えるワケがないって気がするんだけどどうだろう？それでも、主審がそう判定したんだからどうしようもない。それにしても、愛媛戦からこっち、ペナルティ・エリア内が鬼門になっているのかな？お祓いをしなきゃいけないかもね。
それ以上に、一刻も早く中島のゴールが見たいっ！愛媛戦と合わせて２点損したような気分だ。次節は一回有休になっちゃたけど、後半戦に向けて今まで以上に驀進してもらいたい。それから、終了直前のハンジェのミドル、中島のことがあっただけにアレが決まってたら……。間違いなく、現地もスカパー！組もぶっ壊れていただろうな。
昨季は福岡が留守をしてたんで２年ぶりとなるレベスタ。対戦成績を紐解くとナゼだかアウェイのレベスタでは相性が良くてこれまで一度しか負けていない、といっても３勝しかしてないが（笑）やっぱり、初対戦の「５分で４点」。５－１の大勝が効いているのかな？遠征サポの数も少なかったけど、そういった経緯の味を占めているだけに、今回もオイシイ思いをしようと応援にも力が入った。全体的に、特に前半は双方ともカラダが重そうに見えたけれども、中三日でアウェイ連戦だったにもかかわらず、ウチの選手はよく戦った。逆に、福岡はホームにもかかわらず何か試合に入り切れてないような雰囲気もあり、そのユルさが前半のあわやオウンゴールという場面にも現れてたんじゃないかな？ホームでの試合というのにスキがありまくりの相手だからこそ勝ちたかったね。勝てたね。
次節の相手は町田。あまり使いたくない言葉だけど、残留争いから抜け出すためにも絶対負けられない相手だから、少しでも勝ち点に差をつけておきたかったというのが正直な感想。それでも、貴重な勝ち点１。いろいろ難しい状況が続くけど、選手やスタッフが戦っている以上、ボクらも投げ出すワケにはいかない。共に全力で勝利を勝ち取ろう！！（ぐん、）

【セカンド】東海リーグ、全社予選も

●東海社会人サッカーリーグ１部を戦っているＦＣ岐阜セカンド（以下「セカンド」）は、６試合を終えて４勝２分０敗の勝ち点１４で首位に立っています。
ここだけ見ると「絶好調！」のようにも感じてしまうのですが、どうも様子が違うのです。得点２１の失点９。ここで問題視したいのは「失点９」の部分。６試合で９失点は決して少ない数字ではありません（現在の最少失点はＦＣ刈谷の「４」）。
実はセカンドはリーグ戦６試合を終えて無失点試合がないのです。まだ初日が出ていない「藤枝市役所」「中京大学ＦＣ」はしょうがないとして、その他の４チームはいずれもクリーンシート（無失点試合）を経験しています。前節のＦＣ刈谷戦も、後半アディショナルタイムに同点に追いつかれてしまいました。現在は首位ですが、２位のマルヤス工業とは勝ち点１差。厳しい戦いが続いています。
一方、「東京全社」の出場権をかけた東海予選も近づいています。東海予選は７／７と８の週末に連戦で行われ、セカンドは地元・長良川球技メドウでし７日に静岡教員芙蓉クラブ（静岡県１部・静岡５位）戦、それに勝利すれば８日は同じくメドウで「ChukyoUniv.FC（東海１部・愛知３位）と矢崎バレンテ（東海１部・静岡２位）の勝者」と決定戦となります。
矢崎とはリーグ開幕戦で当たって６－２で勝利していますが、東海予選は一発勝負です。復調の気配を見せるイグハギ（矢崎の誇る快速２トップの井口と萩田）には要注意。ChukyoUniv.FCにも７－２で勝利していますが、相手は学生。走りっこ勝負に持ち込まれると若さにやられてしまう可能性も。もちろん、その前に７日の芙蓉クラブ戦にきっちり勝たないといけませんが。
７／８は長良川競技場で午後７時からＦＣ岐阜×ロアッソ熊本の試合があります。メドウの決定戦は午前11時から。この日は長良川近辺でサッカー三昧の日曜日…というのはいかがでしょう？
※試合日程、時間などについては後日に変更の可能性がありますのでご了承ください。
（吉田鋳造）

【ユース】Ｇ２リーグ戦

●我らがＦＣ岐阜ユースＵ－１８（以下岐阜ユース）は、６月９日（土）にＧ２リーグで大垣工業Ｂとの試合が有りました。
大垣工業は先日のインターハイ県大会で優勝したチームであり、この日はＢチームとの対戦でしたが、１対０で見事勝利を掴みました（パチパチパチ）。これで岐阜ユースは４節終了時点で４勝０敗０分の勝点１２！得失点差で２位となっています。
そして６月２３日（土）には同じ全勝同士の大垣西高校との対戦があった筈ですが、結果はどうだったでしょうか？吉報が届いている事を祈っています。
次の試合は６月３０日（土）に土岐商業高校との対戦となります。頑張れよ！応援しているからな！！
ＦＯＲＺＡ！ＦＣ岐阜ユース！（シュナ）